第8回
全国原子力発電所立地議会サミット

【テーマ】「フクシマから何を学ぶか～エネルギーとしての原子力発電～」

報　告　書

と　き：平成24年11月20日（火）～21日（水）

ところ：品川プリンスホテル（東京都港区高輪）

全国原子力発電所立地市町村議会議長会

第８回全国原子力発電所立地議会サミット

《プ　ロ　グ　ラ　ム》

第1日目 11月20日(火)

午後

12：00～　受付

13：00～13：40

開会式（プリンスホール）

会長（実行委員長）あいさつ

来賓祝辞

経済産業省　様

文部科学省　様

原子力規制委員会　様

国会議員　様

全国原子力発電所所在市町村協議会会長　様

13：50～15：20

基調講演

「立地自治体との対話」

講師　経済産業省　様

「被災自治体からの提言」

講師　福島県原子力発電所所在町協議会

会長　富岡町長　　遠藤　勝也　様

15：50～18：00

分科会

・第１分科会［福島原発事故の検証と被災自治体の課題］
（会場　石鎚）

・第２分科会［原子力発電所の防災・安全対策と再稼働］
（会場　大山）

・第３分科会［エネルギー政策の方向と諸課題］
（会場　浅間）

・第４分科会［高経年化対策と核燃料サイクル］
（会場　岩木）

・第５分科会［今後の原子力政策と地域振興のあり方］
（会場　大雪）

19：00～20：30

交流懇親パーティー（プリンスホール）

第2日目 11月21日(水)

午前

9：30～10：10

全体会（プリンスホール）

分科会報告

・第１分科会

・第２分科会

・第３分科会

・第４分科会

・第５分科会

国からのコメント

10：10～10：30

閉会式（プリンスホール）

大会宣言

次期開催地代表あいさつ

閉会のあいさつ

第８回全国療育支援者研究集会プログラム

（プログラム）

第１日目　11月29日(火)

12：00 ～　受付

13：00 ～ 13：30

開会式（ウリンスホール）

全国（実行委員会）あいさつ

来賓祝辞

厚生労働省　様

文部科学省　様

東京都知的障害者福祉協会　様

国会議員　様

全国療育支援者研究集会実行委員会　様

13：30 ～ 15：30

基調講演

「障害児者とのあゆみ」

講師　厚生労働省　様

「療育のあゆみからの提言」

講師　横浜市療育支援者研究協議会

会長　高橋理恵　　幹事　佐藤　浩司　様

15：30 ～ 18：00

分科会

・第１分科会「障害児療育施設の機能と療育自治体の役割」

（会場　　）

・第２分科会「医療と療育機関の災害・安全対策と連携」

（会場　　）

・第３分科会「エネルギー政策の変更と療育の展望」

（会場　　）

・第４分科会「重症児者療育と医療的ケア（ケア）」

（会場　　）

・第５分科会「学校の医療ケア体制と地域連携の方向」

（会場　　）

18：30 ～ 20：30

交流懇親パーティー（ウリンスホール）

第２日目　11月30日(水)

9：30 ～ 10：10

全体会（ウリンスホール）

分科会報告

・第１分科会

・第２分科会

・第３分科会

・第４分科会

・第５分科会

「重症児者のこれから」

10：10 ～ 10：30

閉会式（ウリンスホール）

大会宣言

次期開催地あいさつ

閉会のあいさつ

開　　会　　式

開　会　宣　言

第８回全国原子力発電所立地議会サミット
副実行委員長
富岡町議会議長　**宮　本　皓　一**

東日本大震災、そして福島第一原子力事故により、我が地域住民は、いまだ避難生活を強いられておりますが、この間全国の皆々様から物心両面にわたり、温かい御支援をいただいておりますことに、この場をおかりしまして厚く御礼を申し上げたいと思います。

ありがとうございました。

それでは、ただいまより第８回全国原子力発電所立地議会サミットを開会いたします。

主催者あいさつ

全国原子力発電所立地市町村議会議長会　会長
第８回全国原子力発電所立地議会サミット　実行委員長
柏崎市議会議長　**霜　田　　彰**

こんにちは。今ほど御紹介いただきました、全国原子力発電所立地市町村議会議長会会長であり、当サミット実行委員長の柏崎市議会議長の霜田彰でございます。

昨年３月発生いたしました東日本大震災から、１年８カ月がたちましたけれども、いまだ故郷に帰れない人たち、そして不自由な生活を余儀なくされている皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の１日も早い復興をお祈りする次第であります。

本日の第８回全国原子力発電所立地議会サミットの開催にあたり、主催者並びに実行委員会を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げさせていただきます。

本日は、大変御多忙の中、経済産業省、資源エネルギー庁長官、髙原一郎様、文部科学省研究開発局長　戸谷一夫様、原子力規制庁から政策評価・広聴広報課長、佐藤暁様を初め、国会議員の先生方、原子力に係る全国各地の議会議員の皆様、並びに行政電力事業関係者など、多くの皆様の御臨席を賜り、本サミットが開催できますことに心より御礼を申し上げる次第でございます。

このサミットは、平成９年４月28日に設立総会を開いて誕生いたしました。この原発議長会の設立目的であります「原子力発電所等が立地している市町村の派生する諸問題について協議し、組織的に協力して調査・研究や情報交換を行い、ときには提言団体になるなど、住民の安全の確保と福祉の向上、そして地域の振興に寄与する」とした設立目的を踏まえ、平成９年７月に第１回サミットを開催してから、今回で８回目を迎えております。

昨年の福島第一原子力発電所の事故により、我が国の原子力に対する信頼は大きく損なわれており、世界の原子力開発に大きな影響を与えたものと認識しております。

また、政府においては、原子力の規制を担う原子力規制委員会と、その事務局である原子力規制庁が、ことしの７月19日に発足し、スタートしたところでございます。

このように、前回までのサミット開催のときとは全く異なった状況下でありますが、これまでは、原子力をめぐり、国策としての国の果たすべき責任、原子力政策に関する国民理解、安全・安心のための実効性のある規制機関、防災体制、広報のあり方、原子力発電等施設の立地と地域振興、立地自治体の議会の役割と責務などについて、その都度、サミット宣言をしながら訴えてまいりました。

本日御出席の皆様は、それぞれの立場でさまざまな御意見をお持ちになり、原子力に関する活動にかかわってこられたと思いますが、我々全国原子力発電所立地市町村議会議長会は、国策に基づく国のエネルギー政策として、今日まで一定の理解を示しつつ、住民の安全・安心を常に最優先しながら、地域振興、地域共生に取り組んでまいったところでございます。

さて、今回のサミットは、「フクシマから何を学ぶか～エネルギーとしての原子力発電～」をメ

ーンテーマに、本日から２日間にわたって、参加者の皆様には原子力政策に関する諸課題について御議論を深めていただくわけでございますが、本サミットが活発な意見交換、情報の共有化を図るための、有意義な議論の場となるよう願うものであります。

結びに当たりまして、本サミットが実り多い大会でありますことを、また、きょう御出席のそれぞれの議会の、ますますの御活躍、そして御列席の皆様の御健勝・御活躍を御祈念申し上げまして、私からの御挨拶とさせていただきます。２日間よろしくお願いいたします。

来　賓　祝　辞

経済産業大臣
枝　野　幸　男
（代理　資源エネルギー庁長官　髙原一郎）

ただいま御紹介を賜りました、資源エネルギー庁長官の髙原でございます。

まず初めに、先ほど宮本議長からもお話ございましたけれども、１年半、東電の福島第一原発の事故から経過をいたしておりますけれども、まだまだ被災地では、大変厳しい状況が続いております。皆様に引き続き、御心配をおかけしていることも含めて、改めておわびを申し上げたいと思っております。

また、本日こういった形で立地自治体の皆様方とお話をさせていただく機会をいただいたことを、これは私ども本当に感謝を申し上げる次第でございます。

９月14日でございますけれども、政府としてエネルギー・環境会議という関係閣僚会議でございますが、その場で革新的エネルギー・環境戦略が決定されました。この戦略の中には、原子力規制委員会において、安全性が確認された原発はこれを重要電源として活用するということが決定されております。私ども資源エネルギー庁も、あるいは経済産業省も、この方針に沿って対応をさせていただこうと思っております。

いずれにいたしましても、先ほど実行委員長からお話がございましたとおり、これまで国策に大変な御協力を賜ってきたこと、これに対して感謝の思いを新たにさせていただくと同時に、また皆さん方とさらに一層連携を深めながら、政策を進めていきたいというふうに思っておりますので、ぜひとも皆様方の、いろんな意味の、立場からの御指導をお願い申し上げまして、簡単でございますけれども、御挨拶とさせていただきます。

今後とも、どうかよろしくお願いいたします。

以上でございます。

文部科学大臣

田　中　眞紀子

（代読　研究開発局長　戸谷一夫）

ただいま御紹介いただきました、文部科学省の研究開発局長の戸谷でございます。大臣にかわりまして、預かってまいりました挨拶を代読させていただきます。

第８回全国原子力発電所立地議会サミットの開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

まず、昨年３月の東京電力福島第一原子力発電所の事故により、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。文部科学省におきましても、引き続き関係機関との協力のもと、復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいります。

また、全国原子力発電所立地市町村議会議長会の皆様におかれましては、日ごろより文部科学省の取り組みにつきまして、御理解と御協力をいただくとともに、立地地域としてのお立場からさまざまな御意見を頂戴しておりますことに、深く感謝を申し上げます。

文部科学省といたしましても、本年９月に政府で決定いたしました、革新的エネルギー・環境戦略などを踏まえつつ、今後とも確実に原子力の安全に貢献する技術基盤の維持、また優秀な人材の育成に向けて、努力をしていきたいと考えております。

また、現在、文部科学省で所管をしております、原子力損害賠償の関係につきましても、特に最近、被害者の皆様方と東京電力との間で紛争が起こりました際に、その和解を仲介する紛争解決センターの体制が、まだ不十分だという指摘を受けており、現在その体制の拡充に向けて、大いに努めているところでございます。今後ともこの件からの迅速な解決に向けて、努力をさせていただきたいと考えております。

今後とも、皆様の御理解と御協力を賜りますようにお願いを申し上げますとともに、改めて我が国の今回の震災からの一刻も早い復旧復興を祈念して、私の御挨拶とさせていただきます。

平成24年11月20日、文部科学大臣、田中眞紀子。代読。以上でございます。

本日は、第８回全国原子力発電所立地議会サミットの開催、おめでとうございます。

原子力規制委員会委員長

田　中　俊　一

（代読　政策評価・広聴広報課長　佐藤暁）

ただいま御紹介いただきました原子力規制庁政策評価・広聴広報課長の佐藤でございます。

本日はお招きに預かりましたが、原子力規制委員会臨時会開催のため、委員長の田中俊一は、残念ながら会場に参ることがかないませんでした。御挨拶を預かっておりますので、代読させていただきます。

私ども原子力規制委員会は、９月19日に発足いたしました。原子力規制行政への信頼が失墜している中、国民の厳しい目をしっかりと受けとめながら、規制の強化により、安全の確保を行うことが責務であると認識しております。

東京電力福島原子力発電所事故の教訓を踏まえ、独立性と透明性を確保しながら、日本の原子力規制を世界で最も厳しいレベルのものに維持していかなければなりません。取り組むべき課題はたくさんありますが、発足から２カ月がたち、少しずつ前進しております。

まず、東京電力福島第一原子力発電所について、廃炉を見据えた新たな規制を行うべく、特定原子力施設に指定いたしました。他の原子炉に対する新たな基準についても、来年７月までにつくる必要がございます。幾つかの検討チームを既に立ち上げ、本格的な議論が始まっております。

また、関西電力、大飯原子力発電所を初めとして、敷地内破砕帯の現地調査にも取りかかっております。そのような取り組みの中で、合わせて力を入れてきたのが原子力災害対策指針の策定でございます。立地自治体の皆様からさまざまな御意見を頂戴し、御指導をいただくことで策定に至りましたことを、深く感謝申し上げます。

私はこれまで一貫して、地域の皆様が安心できる防災計画を持つことが、原子力規制の前提条件だと申し上げてまいりました。今回の指針を始まりとして、それぞれの地域にあった防災計画をつくることが何より重要です。委員会としても、計画は自治体につくっていただくという姿勢ではなく、皆様との共同作業を通じて、指針やシミュレーションなどを生かした実効性のある計画づくりに取り組みたいと考えています。大きな事故を受けて、従来の備えだけでは十分でないということが明らかになった今、特に立地自治体の住民の皆様は大きな不安を抱えていらっしゃることと思います。

事故は起き得る、というところからスタートする新たな防災は、簡単ではありません。住民の代表として、重要な役割を担っておられる立地自治体の皆様から学び、そして協力しながら放射線の有害な影響から、人と環境を守ることに全力を注いで行く所存です。

最後になりましたが、第８回全国原子力発電所立地議会サミットが実り多いものとなりますよう祈念いたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。

本日は、どうもおめでとうございました。